

平成 21 年度大牟田市自然環境調査報告書

三塚山～高取山 調査



高取山から新大牟田駅を望む

平成 22 年 3 月 大牟田市自然環境調査研究会 大 牟 田 市

はじめに

自然環境は、人間を含むすべての生物にとって、最も重要な生存基盤を構成する環境要素であり、多様な生態系を維持し豊かな自然環境を地域の財産として、次世代へ引き継いでいくことが大切です。

本市では、平成14年度より「大牟田市環境基本計画」を施行し、自然環境の保全を重要な課題の一つと位置づけ、快適環境都市を目指して諸事業を推進しています。自然環境調査は、本市の自然環境の現状や貴重な動植物等の生息状況を調査し、自然環境保全の基礎資料とするとともに、市民の啓発に資するために行っています。

平成21年度は、三塚山～高取山の調査を実施しましたので報告します。

目 次

1 調査目的	1
2 調査期間	1
3 調査地域	1
4 調査対象分野と担当者	1
5 調査方法	2
6 調査結果	2
(1) 地形・地質	2
(2) 植物	4
(3) ほ乳類	15
(4) 鳥類	16
(5) 爬虫類・両生類	17
(6) 昆虫類・クモ類	18
(7) 陸産貝類	23
7 まとめ	23
8 謝辞	24

1 調査目的

本調査は、大牟田市環境基本計画（平成14年3月版）のグリーンセンサス（定期的な自然環境調査）として、自然環境保全の基礎資料とするとともに、市民・事業者等の啓発に資するため、実施するもの。

2 調査期間

①春季調査：平成21年6月4日（木） 9時00分～12時00分 天候：晴れ

②秋季調査：平成21年10月15日（木） 13時00分～16時00分 天候：晴れ

3 調査地域

この地域は、平成12～13年、環境基本計画の基礎資料として実施された自然環境調査以降、調査が行われていない。このようなことから今回、本市の東部に位置する三塚山～高取山地区の三井化学㈱及び日本コークス㈱所有の防火帯を中心に大牟田恵愛園から九州電力の高圧線（一港三池旧線51号）の鉄塔までの範囲の調査を行った。なお、三塚山周辺と高取山周辺の地形・地質と植物は事前調査の結果も含めた。



4 調査対象分野と担当者

調査対象分野は、地形・地質、植物、ほ乳類、鳥類、爬虫類・両生類、昆虫類・クモ類及び陸産貝類とし、大牟田市自然環境調査研究会に調査を依頼した。

調査対象分野	担当者	調査対象分野	担当者
総括	白石 哲	鳥類	永江 和彦
地形・地質	古藤 文彦	爬虫類・両生類	松永 公幸
植物	中島 健晴	昆虫類・クモ類	中嶋 秀利
ほ乳類	尾形 健二	陸産貝類	嶺井 久勝

希少野生生物及び特定外来生物については、下記参照。

絶滅危惧Ⅰ類	絶滅の危機に瀕している種。
絶滅危惧ⅠA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
絶滅危惧ⅠB類	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
絶滅危惧Ⅱ類	絶滅の危険が増大している種。
準絶滅危惧	存在基盤が脆弱（弱い）な種で、生息条件の変化によっては、「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。
特定外来生物	外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもので、国が指定したもの。

5 調査方法

分 野	調 査 方 法
地 形 ・ 地 質	調査範囲内を踏査するとともに、航空写真等で現地の地形と地下地質構造について、解析した。
植 物	調査範囲内を踏査し、目視によって出現する植物の種を確認した。
ほ 乳 類	調査ルートを設定し、動物の足跡や食痕・糞などを調査し確認した。
鳥 類	調査ルートを設定し、周辺に出現する鳥類の種類を確認した。
爬虫類・両生類	調査ルートを設定し、目撃確認及び捕獲することで種類を確認した。
昆虫類・クモ類	同 上
陸 産 貝 類	同 上

6 調査結果

(1) 地形・地質

三池山の西南部から西方の市街地（亀谷・延命公園付近）へかけては、三池丘陵地が分布している。三池丘陵地は、県道三池―金山線あたりで、高度が減じて鞍部になっている。これは、南北系の断層である米ノ山断層と位置的に一致しており、米ノ山断層に起因する浸食作用の違いによって形成された地形であると考えられる。また、米ノ山断層内の急傾斜をした堅硬な砂岩類を主体となす部分は周辺より浸食されにくく南北に細長い塁壁状の地形を作っている。

米ノ山断層から東方の三池山に近接した部分は玉名花こう閃緑岩によって構成されており、米ノ山断層から西方は、古第三紀の堆積岩が主体となる丘陵地となっている。地形図や航空写真からは、東西方向の丘陵の並びがいくつか確認できる。最も北側にある丘陵の並びのうち、東部に位置する最高標高点（139m）が高取山である。また、帝京大学福岡キャンパスのすぐ北側には、同じような形状をした丘陵の並びがあるが、それらの中で三角点が設置されている丘陵（149.4m）、あるいは三角点設置丘陵を含めた周囲の同じ形状の丘陵全体を指して三塚山と呼んでいる。

高取山・三塚山地域の地層は、古第三紀始新世の堆積岩を主体としている。米ノ山断層内においては、赤崎層群銀水層、大牟田層群米ノ山層、大牟田層群稲荷層が分布している。

断層活動の影響で地層の傾斜は急であり、圧砕や褶曲が見られる。米ノ山断層から西側では、地層は概ね10度前後南西～南南西落ちの、緩い傾斜をなしている。高取山地域には稲荷層、七浦層、勝立層が、三塚山地域では七浦層、勝立層が分布している。

赤崎層群銀水層は、当地域では米ノ山断層帯に沿って幅300mほどの帯状に、南北方向に細長く分布している。主に淘汰の悪い礫岩、砂岩からなり、青灰色あるいは銀水層に特徴的な赤紫色の頁岩がみられることもある。

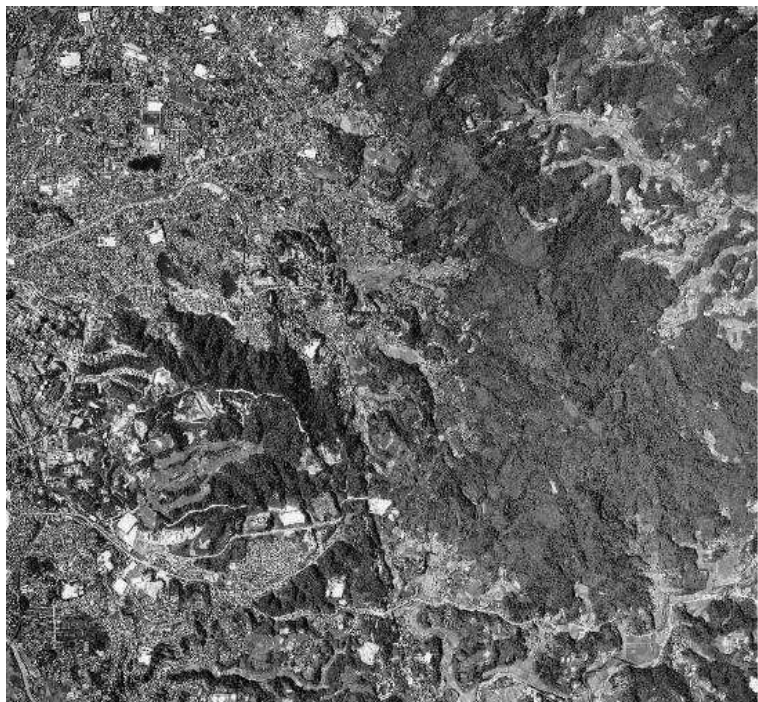
大牟田層群稲荷層は、平野山から高取山の北斜面、および米ノ山断層内に分布している。中～粗粒の砂岩を主体としており泥岩層も伴う。泥岩層の層準には、三池本層や第2層等の石炭層や炭質頁岩層が挟まれており、石炭層には硅化木が産出することもある。数種類の生痕化石（砂管）が認められる。

大牟田層群七浦層は、龍湖瀬、亀谷、七浦、高取山上部～三塚山北斜面に分布している。中粒～粗粒の塊状砂岩からなり、表面は淡褐色に風化している。節理の発達は見られない。地層の下部の層準にレンズ状の泥質砂岩を含み、*Faunas? miikensis* や *Vepricardium miikense* 等を産出する。龍湖瀬～亀谷にかけての露頭は *Faunas? miikensis* が密集して産出していたが、近年の畑作地への改変により化石の確認は極めて困難になっている。

万田層群勝立層は、高取山南方～三塚山南斜面にかけて分布している。主に灰緑色をした中～粗粒砂岩、砂泥互層、シルト岩からなる。灰緑色砂岩はよく海緑石を含んでいる。また、最下部の灰緑色砂岩層、その上位にくるシルト岩層のノジュールからは、海棲貝化石を主とした動物化石を多産する（勝立化石層）。勝立の貝化石は、産状から準現地性の化石群集と考えられる。灰緑色砂岩層での *Venericardia nipponica* と *Crassatella nipponensis* の密集した産出が特徴的である。他、勝立化石層において比較的容易に確認できる化石としては、腹足類 *Polinices eocenicus*、*Neptunea altispirata*、二枚貝類 *Lima*、*Pitar*、*Pholadomya*、腕足類 *Terebratalia*、*Dallina*、サンゴ類 *Caryophyllia*、*Flabellum*、魚類 *Odontaspis*、*Carcharodon*、等があげられる。三塚山南斜面の勝立地域にはいくつかの勝立化石層を多産する露頭があるが、地層と地形の傾斜が同方向なためいずれも流れ盤となっており、ほぼ同一の層準にあると思われる。また、三塚山南西斜面の尾根筋末端のシルト層では直径 2～4cm 程の高師小僧が産出しているが、産状からすると第四紀に形成されたものと考えられる。



国土地理院5mメッシュ数値地図のデータを基にカシミール3Dで作成



米の山断層航空写真 国土地理院ホームページから引用

の化石群集と考えられる。灰緑色砂岩層での *Venericardia nipponica* と *Crassatella nipponensis* の密集した産出が特徴的である。他、勝立化石層において比較的容易に確認できる化石としては、腹足類 *Polinices eocenicus*、*Neptunea altispirata*、二枚貝類 *Lima*、*Pitar*、*Pholadomya*、腕足類 *Terebratalia*、*Dallina*、サンゴ類 *Caryophyllia*、*Flabellum*、魚類 *Odontaspis*、*Carcharodon*、等があげられる。三塚山南斜面の勝立地域にはいくつかの勝立化石層を多産する露頭があるが、地層と地形の傾斜が同方向なためいずれも流れ盤となっており、ほぼ同一の層準にあると思われる。また、三塚山南西斜面の尾根筋末端のシルト層では直径 2～4cm 程の高師小僧が産出しているが、産状からすると第四紀に形成されたものと考えられる。

(2) 植物

春季調査では、シダ植物 16 科 30 種、種子植物 81 科 259 種、計 97 科 289 種、秋季調査では、シダ植物 16 科 30 種、種子植物 82 科 280 種、計 98 科 310 種を確認した。春季及び秋季の調査結果から、合計シダ植物 16 科 31 種、種子植物 89 科 338 種、計 105 科 369 種を確認した。

希少野生生物は、環境省の絶滅危惧ⅠＢ類に指定されているハクチョウゲ、絶滅危惧Ⅱ類に指定されているイヌカタヒバを確認した。(栽培されていたものが逸出し、野生化したものと考えられる。)

また、特定外来生物に指定されているオオキンケイギクを確認した。

植物一覧表

分類群				春季調査		秋季調査		合計	
				科	種	科	種	科	種
シダ植物				16	30	16	30	16	31
種子植物	裸子植物			1	2	1	2	1	2
	被子植物	双子葉類	離弁花類	52	147	52	152	58	176
		葉類	合弁花類	19	68	20	69	21	89
		単子葉類		9	42	9	57	9	71
合計				97	289	98	310	105	369

希少野生生物及び特定外来生物リスト

和 名	種 類
ハクチョウゲ 写真なし	【環境省絶滅危惧ⅠＢ類】 高さ 50-100cm の常緑小低木。多くの細い枝を分枝して横に広がり、若枝は黒紫色で短毛を有す。葉は革質で長楕円形または倒披針形。枝先または葉のわきに出る短い枝の先に 1-2 個白色で外側が淡紅紫色をおびた、花冠がろうと状の花を咲かす。(出典:筑波実験植物園公式ホームページ)
イヌカタヒバ 	【環境省絶滅危惧Ⅱ類】 林下の岩上に生じる常緑性シダ。地下茎は匍匐し、葉をまばらにつけ、ところどころに根を生じる。先端部がしだいに地上茎となり、3-4 回分岐して葉身状となる。葉柄に相当する部分は葉身状の部分とほぼ同長、葉身状の部分は広卵状三角形で鋭頭、長さ 12-25cm、幅 5-10cm。胞子囊穂は小枝に1個頂生し、長さ 5-15mm。(出典:環境省レッドデータブック)
オオキンケイギク 	【特定外来生物】 キク科の多年生草本で、高さは 0.3-0.7m 程度。温帯に分布する。路傍、河川敷、線路際、海岸などに生育する。開花期は 5-7 月。頭状花。虫媒花。瘦果をつける。(出典:環境省特定外来生物等一覧)

植物合計リスト

No. 1

科名	和名	6月	10月	備考
シダ植物 6月(16科30種) 10月(16科30種) 合計(16科31種)				
ヒカゲノカズラ科	ヒカゲノカズラ	○	○	
イワヒバ科	イヌカタヒバ	○	○	帰・逸【環境省絶滅危惧Ⅱ類】
トクサ科	スギナ	○	○	
ハナヤスリ科	オオハナワラビ	○		
	フユノハナワラビ	○	○	
ゼンマイ科	ゼンマイ	○	○	
ウラボシ科	ウラボシ	○	○	
	コシダ	○	○	
フサシダ科	カニクサ	○	○	
コバノイシカグマ科	ワラビ	○	○	
	イシカグマ	○	○	
	イワヒメワラビ	○	○	
	フモトシダ	○	○	
ホングウシダ科	ホラシノブ	○	○	
ホウライシダ科	ホウライシダ	○	○	帰
	イワガネソウ	○	○	
	タチシノブ	○	○	
イノモトソウ科	イノモトソウ	○	○	
チャセンシダ科	トラノオシダ	○	○	
シシガシラ科	シシガシラ	○	○	
	オオカグマ	○	○	
オンダ科	イノデ	○	○	
	オオイタチシダ	○	○	
	オニヤブソテツ	○	○	
	ベニシダ	○	○	
	ヤブソテツ	○	○	
	クマワラビ		○	
ヒメシダ科	ホシダ	○	○	
ウラボシ科	ノキシノブ	○	○	
	ヒトツバ	○	○	
	マメヅタ	○	○	
種子植物 6月(81科259種) 10月(82科280種) 合計(89科338種)				
裸子植物 6月(1科2種) 10月(1科2種) 合計(1科2種)				
マツ科	クロマツ	○	○	木
	アカマツ	○	○	木

科名	和名	6 月	10 月	備考
被子植物 6月(80科 257種) 10月(81科 278種) 合計(88科 336種)				
(1) 双子葉類 6月(71科 215種) 10月(72科 221種) 合計(79科 265種)				
① 離弁花類 6月(52科 147種) 10月(52科 152種) 合計(58科 176種)				
ヤマモモ科	ヤマモモ	○	○	木
クルミ科	シナサワグルミ		○	木・逸
ブナ科	ナラガシワ	○	○	木
	アラカシ	○	○	木
	クヌギ	○	○	木
	コナラ	○	○	木
	シリブカガシ	○	○	木
	クリ	○	○	木
	スダジイ	○	○	木
	ツブラジイ	○	○	木
ニレ科	ムクノキ	○	○	木
	エノキ	○	○	木
クワ科	イヌビワ	○	○	木
	カジノキ	○	○	木
	ツルコウゾ	○	○	木
	ヒメコウゾ	○	○	木
	クワクサ		○	
	ヤマグワ		○	木
アサ科	カナムグラ		○	
イラクサ科	アオカラムシ	○	○	
	イワガネ	○	○	木
	カラムシ	○	○	
	ヤブマオ	○	○	
ヤマモガシ科	ヤマモガシ	○	○	木
ボロボロノキ科	ボロボロノキ	○	○	木
ヤドリギ科	ヒノキバヤドリギ	○	○	
タデ科	アレチギンギン	○		帰
	イタドリ	○	○	
	オオイヌタデ	○		
	ギンギン	○		
	スイバ	○		
	ヒメスイバ	○	○	帰
	ミズヒキ	○	○	
	イシミカワ		○	
	イヌタデ		○	

科名	和名	6月	10月	備考
(タデ科)	ママコノシリヌグイ		○	
	ミゾソバ		○	
ナデシコ科	コハコベ	○		
	ムシトリナデシコ	○		帰
	シロバナマンテマ	○		帰
オシロイバナ科	オシロイバナ		○	帰
ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ		○	帰
スベリヒユ科	ハゼラン		○	帰
アカザ科	ケアリタソウ		○	帰
	シロザ		○	帰
ヒユ科	イノコヅチ	○	○	
	アオゲイトウ		○	帰
	イヌビユ		○	帰
	ヒナタイノコヅチ		○	
	ホソアオゲイトウ		○	帰
マツブサ科	サネカズラ	○	○	木
クスノキ科	ヤブニッケイ	○	○	木
	クスノキ	○	○	木
	シロダモ	○	○	木
	タブノキ	○	○	木
	ホソバタブ	○	○	木
	イヌガシ		○	木
キンボウゲ科	アキカラマツ	○		
	センニンソウ	○	○	
	ヒメウズ	○		
	ボタンヅル	○	○	
メギ科	ナンテン	○	○	木
アケビ科	アケビ	○	○	木
	ゴヨウアケビ	○	○	木
	ミツバアケビ	○	○	木
	ムベ	○	○	木
ツヅラフジ科	アオツヅラフジ	○	○	木
ドクダミ科	ドクダミ	○	○	
ウマノスズクサ科	オオバウマノスズクサ	○	○	木
マタタビ科	シマサルナシ	○	○	木
	オニマタタビ	○	○	木・逸
ツバキ科	サカキ	○	○	木
	ヒサカキ	○	○	木
	ヤブツバキ	○	○	木

科名	和名	6月	10月	備考
ケシ科	ナガミヒナゲシ	○		帰
アブラナ科	オオアラセイトウ	○		逸
	ナズナ	○		
	マメグンバイナズナ	○		帰
ベンケイソウ科	コモチマンネングサ	○		
	メキシコマンネングサ	○		帰
ユキノシタ科	ユキノシタ	○	○	
バラ科	テリハノイバラ	○	○	木
	カナメモチ	○	○	木
	ノイバラ	○	○	木
	ビロードイチゴ	○	○	木
	オヘビイチゴ	○		
	ナガバモミジイチゴ	○	○	木
	ヤマザクラ	○	○	木
	カマツカ	○	○	木
	クサイチゴ	○	○	木
	トキワサンザシ	○	○	木・逸
	キンミズヒキ	○	○	
	フユイチゴ	○	○	木
	ヘビイチゴ	○		
	ミヤマフユイチゴ	○	○	木
	ヤマイバラ	○	○	木
	ナワシロイチゴ	○	○	木
マメ科	ナツフジ	○	○	木
	イタチハギ	○	○	木・逸
	ネコハギ	○	○	
	ネムノキ	○	○	木
	クズ	○	○	
	フサアカシア	○	○	木・逸
	コマツナギ	○	○	木
	メドハギ	○	○	
	ニシキハギ	○	○	木
	アレチヌスビトハギ	○	○	帰
	コメツブツメクサ	○		帰
	ヤハズソウ	○	○	
	シロツメクサ	○	○	帰
	ハリエンジュ	○	○	木・逸
	モリシマアカシア	○	○	木・逸
	ヤマフジ	○	○	木
	ヌスビトハギ		○	

科名	和名	6月	10月	備考
(マメ科)	ノアズキ		○	
	ヤマハギ		○	木
カタバミ科	アカカタバミ	○	○	
	イモカタバミ	○	○	帰
	オッタチカタバミ	○	○	帰
	カタバミ	○	○	
	タチカタバミ	○	○	
	ムラサキカタバミ	○	○	帰
フウロソウ科	アメリカフウロ	○		帰
トウダイグサ科	アカメガシワ	○	○	木
	コニシキソウ	○	○	帰
	エノキグサ		○	
	オオニシキソウ		○	帰
	コミカンソウ		○	
	ハイニシキソウ		○	帰
ユズリハ科	ヒメユズリハ	○	○	木
ミカン科	イヌザンショウ	○	○	木
	カラスザンショウ	○	○	木
ニガキ科	ニガキ	○	○	木
	ニワウルシ	○	○	木・逸
センダン科	センダン	○	○	木
ヒメハギ科	ヒメハギ	○		
ウルシ科	ヌルデ	○	○	木
	ハゼ	○	○	木
	ヤマハゼ	○	○	木
カエデ科	イロハカエデ	○	○	木
	トウカエデ	○	○	木・逸
モチノキ科	ナナミノキ	○	○	木
	イヌツゲ	○	○	木
	クロガネモチ	○	○	木
ニシキギ科	ツルウメモドキ	○	○	木
	マサキ	○	○	木
ミツバウツギ科	ゴンズイ	○	○	木
ブドウ科	ツタ	○	○	木
	ノブドウ	○	○	木
	ヤブガラシ	○	○	
	エビズル		○	木
ホルトノキ科	コバンモチ	○	○	木
	ホルトノキ	○	○	木

科名	和名	6月	10月	備考
アオギリ科	アオギリ	○	○	木・逸
ジンチョウゲ科	コガンピ	○	○	木
グミ科	ナワシログミ	○	○	木
	ツルグミ		○	木
スマレ科	アリアケスマレ	○		
	スマレ	○	○	
ウリ科	アマチャヅル	○	○	
	カラスウリ		○	
アカバナ科	コマツヨイグサ	○	○	帰
	メマツヨイグサ	○	○	帰
	オオマツヨイグサ		○	帰
アリノトウグサ科	アリノトウグサ	○	○	
ミズキ科	クマノミズキ	○	○	木
ウコギ科	カクレミノ	○	○	木
	キツタ	○	○	木
	タラノキ	○	○	木
	ハリギリ	○	○	木
	ヤツデ	○	○	木
セリ科	アシタバ	○	○	逸
	ウマノミツバ	○	○	
	オヤブジラミ	○		
	ミツバ	○		
	ヤブジラミ	○		
② 合弁花類 6月(19科68種) 10月(20科69種) 合計(21科89種)				
ツツジ科	ネジキ	○	○	木
	シャシヤンボ	○	○	木
	ヤマツツジ	○	○	木
ヤブコウジ科	マンリョウ	○	○	木
	ヤブコウジ	○	○	木
サクラソウ科	オカトラノオ	○	○	
	コナスビ	○		
カキノキ科	ヤマガキ	○	○	木
エゴノキ科	エゴノキ	○	○	木
ハイノキ科	ミズバイ	○	○	木
	クロキ	○	○	木
	クロミノサワフタギ	○	○	木
モクセイ科	トウネズミモチ	○	○	木・逸
	ネズミモチ	○	○	木
	ヒイラギ	○	○	木

科名	和名	6月	10月	備考
キョウチクトウ科	テイカカズラ	○	○	木
ガガイモ科	ガガイモ		○	
アカネ科	クチナシ	○	○	木
	アカネ	○	○	
	ヘクソカズラ	○	○	
	ハクチョウゲ		○	木・逸【環境省絶滅危惧ⅠB類】
	ヤエムグラ	○		
ヒルガオ科	アメリカアサガオ		○	帰
	ホシアサガオ		○	帰
ムラサキ科	チシヤノキ	○	○	木
	キュウリグサ	○		
クマツヅラ科	クサギ	○	○	木
	アレチハナガサ	○	○	帰
	ハマクサギ	○	○	木
シソ科	トウバナ	○	○	
	キラソウ	○		
	イヌコウジュ		○	
ナス科	ヒヨドリジュウゴ	○	○	
	アメリカイヌホオズキ		○	帰
	テリミノイヌホオズキ		○	
ゴマノハグサ科	キリ	○	○	木
	ウリクサ		○	
	トキワハゼ	○	○	
	タチイヌノフグリ	○		帰
キツネノマゴ科	キツネノマゴ	○	○	
オオバコ科	オオバコ	○	○	
	ツボミオオバコ	○		帰
スイカズラ科	コバノガマズミ	○	○	木
	キダチニンドウ	○	○	木
	サンゴジュ	○	○	木
	スイカズラ	○	○	木
	ソクズ	○	○	
	ニワトコ	○	○	木
キキョウ科	ヒナギキョウ	○		
	キキョウソウ	○		帰
	サイヨウシャジン	○		
キク科	アレチノギク	○		帰
	ヒヨドリバナ	○	○	
	ベニバナボロギク	○	○	帰

科名	和名	6月	10月	備考
(キク科)	ヒメジョオン	○	○	帰
	ウスベニチチコグサ	○		帰
	アキノノゲシ		○	
	アメリカセンダングサ		○	帰
	アメリカタカサブロウ		○	帰
	イヌガラシ		○	
	ウラジロチチコグサ	○	○	帰
	オオアレチノギク	○	○	帰
	ヨモギ	○	○	
	シマカンギク	○		
	オオキンケイギク	○	○	【特定外来生物】
	オオジシバリ	○	○	
	コオニタビラコ	○		
	チチコグサモドキ	○		帰
	タネツケバナ	○		
	オオブタクサ		○	帰
	キバナコスモス		○	逸
	コシロノセンダングサ		○	帰
	コセンダングサ		○	帰
	セイタカアワダチソウ	○	○	帰
	セイヨウタンポポ		○	帰
	センダングサ		○	帰
	ニガナ	○		
	ノゲシ	○		
	ハハコグサ	○		
	ヒメムカシヨモギ	○	○	帰
	フキ	○	○	
	ブタナ	○		帰
	ヤクシソウ	○	○	
	ヤブタバコ	○	○	
	ヤブタビラコ	○		
	ツワブキ	○	○	
	ホウキギク		○	帰
	ホソバアキノノゲシ		○	
	ヨメナ		○	
(2) 単子葉類 6月(9科42種) 10月(9科57種) 合計(9科71種)				
ユリ科	ウバユリ	○	○	
	ジャノヒゲ	○	○	
	ソクシンラン	○		

科名	和名	6月	10月	備考
(ユリ科)	ツルボ		○	
	ヤブラン	○	○	
	タカサゴユリ	○	○	帰
	ノビル		○	
	ヒガンバナ		○	
	ハナニラ	○		逸
ヤマノイモ科	ヤマノイモ	○	○	
	カエデドコロ	○	○	
	タチドコロ		○	
アヤメ科	オオニワゼキショウ	○		帰
	シャガ	○	○	
	ヒメヒオウギズイセン	○	○	逸
	ニワゼキショウ	○		帰
イグサ科	クサイ	○	○	
	スズメノヤリ	○		
ツユクサ科	ヤブミョウガ	○	○	
	ツユクサ		○	
イネ科	アキノエノコログサ		○	
	アキメヒシバ		○	
	アシ		○	
	アブラススキ		○	
	アメリカスズメノヒエ		○	帰
	イヌビエ		○	
	エノコロソウ		○	
	オオクサキビ		○	帰
	オヒシバ		○	
	カゼクサ		○	
	ギョウギシバ	○	○	帰
	アオカモジグサ	○		
	オニウシノケグサ	○		帰
	クマザサ	○	○	
	コメヒシバ		○	
	ササガヤ		○	
	ヒメコバンソウ	○		帰
	ミゾイチゴツナギ	○		
	シナダレスズメガヤ	○	○	帰
	シマスズメノヒエ		○	帰
	ジュズダマ		○	
	ススキ		○	

科名	和名	6月	10月	備考
(イネ科)	タチスズメノヒエ		○	帰
	チガヤ	○	○	
	チカラシバ		○	
	チヂミザサ	○	○	
	スズメノカタビラ	○		
	トウチク	○	○	逸
	ヌカキビ		○	
	ネザサ	○	○	木
	ネズミノオ		○	
	ナギナタガヤ	○		帰
	ヌカススキ	○		帰
	ネズミムギ	○		帰
	ハチク	○	○	逸
	ヒメイヌビエ		○	
	ホテイチク	○	○	
	マダケ	○	○	帰・木
	ムラサキネズミノオ		○	
	メダケ	○	○	木
	メヒシバ		○	
	メリケンカルカヤ		○	帰
	モウソウチク	○	○	帰・木
ヤシ科	シュロ	○	○	木
カヤツリグサ科	アオスゲ	○	○	
	シラスゲ	○		
	ヒメクグ		○	
	ナキリスゲ	○	○	
	ハマスゲ	○	○	
ラン科	コクラン	○	○	
	シュンラン	○	○	

(備考)

木 : 「木本類」の略。木本類とは、形成層が発達し木質化するもので、おおまかにいえば年輪を有するもの。ただし、例外として竹の仲間やつる性のもので年輪が無く、形成層が無くとも木本とするものがある。⇔草本類は、形成層が無い、あるいはあまり発達せず木質化しないもの。

帰 : 「帰化植物」の略。帰化植物とは、意図的・非意図的に関わらず、人為的に本来生息しない地域に持ち込まれ、野生化した植物。

逸 : 「植栽逸出」の略。人為的に植栽されたものが、野生化して繁殖したもの。一般的に帰化植物のうち意図的に持ち込まれたものをさす。



クロミノサワフタギ(4月下旬撮影)



ヤクシソウ(10月中旬撮影)

(3) ほ乳類

春季調査では、イノシシの足跡を確認した。秋季調査では、イノシシの足跡とぬた場及び、モグラのトンネルを確認した。モグラの種類については、日本本土で主にみられるアズマモグラ、コウベモグラのうち、九州本土ではコウベモグラだけが確認されているので、写真のトンネルはコウベモグラのものと推測される。春季及び秋季の調査結果から合計2目2科2種が生息している、または生息していると推測される。

ほ乳類合計リスト

科名	和名	6月	10月	備考
ウシ目 6月(1科1種) 10月(1科1種) 合計(1科1種)				
イノシシ科	イノシシ	○	○	
モグラ目 6月(なし) 10月(1科1種) 合計(1科1種)				
モグラ科	コウベモグラ		○	



イノシシのぬた場



イノシシの足跡



モグラのトンネル

(4) 鳥類

春季調査では、4目8科9種、秋季調査では、3目6科6種を確認した。

春季及び秋季の調査結果から、合計4目9科10種を確認した。

鳥類合計リスト

No. 1

科名	和名	6月	10月	備考
カッコー目 6月(1科1種) 10月(なし) 合計(1科1種)				
カッコー科	ホトギス	○		
スズメ目 6月(5科6種) 10月(4科4種) 合計(6科7種)				
ウグイス科	ウグイス	○		
ツバメ科	ツバメ	○		
カラス科	ハシボソガラス	○	○	
	ハシブトガラス	○		
スズメ科	スズメ	○	○	
ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	
シジュウカラ科	シジュウカラ		○	
キツツキ目 6月(1科1種) 10月(1科1種) 合計(1科1種)				
キツツキ科	コゲラ	○	○	
ハト目 6月(1科1種) 10月(1科1種) 合計(1科1種)				
ハト科	キジバト	○	○	



ウグイス



シジュウカラ

(5) 爬虫類・両生類

春季調査では、爬虫類 1 目 2 科 2 種、両生類 1 目 1 科 1 種を確認した。

秋季調査では、爬虫類 1 目 1 科 1 種、両生類 1 目 1 科 1 種を確認した。春季及び秋季の調査結果から合計爬虫類 1 目 2 科 2 種、両生類 1 目 1 科 2 種を確認した。

希少野生生物は、福岡県絶滅危惧Ⅱ類に指定されているニホンアカガエルを確認した。

希少野生生物リスト

和 名	種 類
ニホンアカガエル 	【福岡県絶滅危惧Ⅱ類】 頭胴長は雄 55mm、雌 65 mm前後。背面は、赤褐色、黄褐色、暗褐色で、眼の後縁から鼓膜をとおり前肢基部にかけて平行四辺形状の大きな黒斑がある。雄の腹面は白色、雌の腹面は橙色また橙色と黄色のまだら模様。基本的に地上性の種で、水辺から離れた林や茂みの中で生活する。(出典:福岡県レッドデータブック2001)

爬虫類合計リスト

科名	和名	6月	10月	備考
有鱗目 6月(2科2種) 10月(1科1種) 合計(2科2種)				
カナヘビ科	カナヘビ	○	○	
トカゲ科	ニホントカゲ	○		



カナヘビ



ニホントカゲ

両生類合計リスト

科名	和名	6月	10月	備考
カエル目 6月(1科1種) 10月(1科1種) 合計(1科2種)				
アカガエル科	ニホンアカガエル		○	【福岡県絶滅危惧Ⅱ類】
	ウシガエル	○		

(6) 昆虫類・クモ類

春季調査では、昆虫類 8 目 34 科 61 種、クモ類 1 目 7 科 10 種、秋季調査では、昆虫類 10 目 38 科 81 種、クモ類 1 目 10 科 22 種を確認した。

春季及び秋季の調査結果から、合計昆虫類 10 目 51 科 114 種、クモ類 1 目 10 科 23 種。

希少野生生物は、福岡県準絶滅危惧に指定されているベニツチカメムシを確認した。

希少種及び特定外来生物リスト

和 名	種 類
ベニツチカメムシ 	【福岡県準絶滅危惧】 集団で亜社会生活をする大型種で、幼虫は地面でボロボロノキの核果で育つ。体長16～19mm 鮮紅色に大きな黒色の紋をもつ。(出典:福岡県レッドデータブック2001)

昆虫類合計リスト

No. 1

科名	和名	6月	10月	備考
チョウ目 6月(12科30種) 10月(13科41種) 合計(14科50種)				
セセリチョウ科	イチモンジセセリ	○	○	
	コチャバネセセリ		○	
	ダイミョウセセリ	○	○	
	キマダラセセリ	○	○	
アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	○	○	
	ジャコウアゲハ		○	
	キアゲハ	○	○	
	アゲハチョウ	○	○	
	クロアゲハ		○	
	ナガサキアゲハ		○	
シロチョウ科	モンシロチョウ	○	○	
	キチョウ	○	○	
	スジグロシロチョウ	○		
	モンキチョウ		○	
シジミチョウ科	ツバメシジミ	○		
	ルリシジミ		○	
	ヤマトシジミ		○	
	ムラサキシジミ		○	
	ベニシジミ		○	
	ウラナミシジミ		○	
	トラフシジミ	○	○	
	ゴイシシジミ		○	

科名	和名	6月	10月	備考
(シジミチョウ科)	クロマダラノテツシジミ		○	
	サツマシジミ	○		
ウラギンシジミ科	ウラギンシジミ	○	○	
タテハチョウ科	アカタテハ	○	○	
	ツマグロヒョウモン	○	○	
	タテハモドキ		○	
	コミスジ	○	○	
	イシガキチョウ	○	○	
	ヒメアカタテハ	○	○	
	ゴマダラチョウ	○		
	ルリタテハ		○	
	キタテハ	○		
	イチモンジチョウ	○		
ジャノメチョウ科	クロヒカゲ	○	○	
	ヒメジャノメ	○	○	
	クロコノマチョウ		○	
	サトキマダラヒカゲ	○		
シャクガ科	ウメエダシャク	○		
	ユウマダラエダシャク	○		
ミノガ科	チャミノガ	○	○	
	シバミノガ		○	
イラガ科	ヒロヘリアオイラガ	○	○	
ドクガ科	チャドクガ	○	○	
スズメガ科	シモプリスズメ(幼虫)		○	
	ホシホウジャク		○	
ヤガ科	フクラスズメ	○	○	
マダラガ科	サツマニシキ		○	
	ホタルガ		○	
トンボ目 6月(1科4種) 10月(4科8種) 合計(4科10種)				
ヤンマ科	カトリヤンマ		○	
サナエトンボ科	タイワンウチワヤンマ		○	
オニヤンマ科	オニヤンマ		○	
トンボ科	ウスバキトンボ		○	
	コシアキトンボ	○	○	
	オオシオカラトンボ	○	○	
	マユタテアカネ		○	
	ノシメトンボ		○	
	シオカラトンボ	○		
	ハラビロトンボ	○		

科名	和名	6月	10月	備考
コウチュウ目 6月(4科9種) 10月(8科11種) 合計(9科19種)				
コガネムシ科	カナブン		○	
	シラホシハナムグリ		○	
	クロカナブン		○	
	セマダラコガネ	○		
	アオハナムグリ	○		
	マメコガネ	○		
ハムシ科	ウリハムシ		○	
	クロウリハムシ	○		
	カタビロトゲハムシ	○		
ハンミョウ科	ハンミョウ		○	
カミキリムシ科	エグリトラカミキリ	○		
	ラミーカミキリ	○		
テントウムシ科	ナミテントウ	○	○	
	ニジュウヤボシテントウ		○	
	ナナホシテントウ	○		
ハネカクシ科	アオバアリガタハネカクシ		○	
センチコガネ科	センチコガネ		○	
エンマムシ科	ルリエンマムシ		○	
ゴミムシダマシ科	キマワリ		○	
カメムシ目 6月(4科4種) 10月(2科3種) 合計(6科7種)				
カメムシ科	クサギカメムシ		○	
	アオクサカメムシ		○	
サシガメ科	ヨコヅナサシガメ	○		
マキバサシガメ科	ハネナガマキバサシガメ	○		
オオホシカメムシ科	オオホシカメムシ	○		
ツチカメムシ科	ベニツチカメムシ	○		【福岡県準絶滅危惧】
セミ科	ツクツクボウシ		○	
ハチ目 6月(4科5種) 10月(2科4種) 合計(5科9種)				
スズメバチ科	セグロアシナガバチ		○	
	コガタスズメバチ		○	
	オオスズメバチ		○	
ミツバチ科	ニホンミツバチ	○		
ミフシハバチ科	アカスジチュウレンジ	○		
タマバチ科	ナラメリンゴフシ	○		
アリ科	アメイロアリ		○	
	アミアリ	○		
	トビイロケアリ	○		

科名	和名	6月	10月	備考
ハエ目 6月(6科6種) 10月(2科2種) 合計(6科7種)				
ムシヒキアブ科	シオヤアブ		○	
	マガリケムシヒキ	○		
アシナガバエ科	マダラアシナガバエ	○	○	
ヒラタアブ科	ホソヒラタアブ	○		
ハナアブ科	ハナアブ	○		
クロバエ科	キンバエ	○		
ニクバエ科	センチニクバエ	○		
ゴキブリ目 6月(1科1種) 10月(1科1種) 合計(1科1種)				
チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ	○	○	
バッタ目 6月(2科2種) 10月(4科7種) 合計(4科7種)				
バッタ科	トノサマバッタ		○	
	イボバッタ		○	
コオロギ科	エンマコオロギ		○	
	ツツレサセコオロギ	○	○	
	クサヒバリ		○	
キリギリス科	ササキリ		○	
イナゴ科	ツチイナゴ	○	○	
カマキリ目 6月(なし) 10月(1科3種) 合計(1科3種)				
カマキリ科	ハラビロカマキリ		○	
	オオカマキリ		○	
	コカマキリ		○	
ナナフシ目 6月(なし) 10月(1科1種) 合計(1科1種)				
ナナフシ科	エダナナフシ		○	



サツマニシキ



クロマダラソテツシジミの交尾

クモ類合計リスト

No. 1

科名	和名	6 月	10 月	備考
クモ目 6月(7科10種) 10月(10科22種) 合計(10科23種)				
ジグモ科	ジグモ	○	○	
ヒメグモ科	オオヒメグモ		○	
コガネグモ科	イエオニグモ		○	
	ドヨウオニグモ	○	○	
	ナガコガネグモ	○	○	
	コガネグモ		○	
	ゴミグモ	○	○	
アシナガグモ科	ジョロウグモ		○	
	アシナガグモ	○	○	
	ヤサガタアシナガグモ		○	
	チュウガタシロカネグモ		○	
タナグモ科	コクサグモ	○	○	
ササグモ科	ササグモ	○	○	
コモリグモ科	ハラクロコモリグモ	○	○	
	ウズキコモリグモ		○	
カニグモ科	ハナグモ		○	
ハエトリグモ科	マミジロハエトリ		○	
	ネコハエトリ		○	
	チャスジハエトリ		○	
	ヤハズハエトリ		○	
	アリグモ	○		
	アオオビハエトリ	○	○	
アシダカグモ科	アシダカグモ		○	



センチコガネを捕獲中のジョロウグモ

(7) 陸産貝類

春季調査では、2 目 2 科 2 種、秋季調査では、1 目 1 科 1 種を確認した。

春季及び秋季の調査結果から、合計 2 目 2 科 2 種を確認した。

陸産貝類合計リスト

科名	和名	6 月	10 月	備考
有肺目 6 月(1 科 1 種) 10 月(1 科 1 種) 合計(1 科 1 種)				
オナジマイマイ科	ツクシマイマイ	○	○	
原始腹足目 6 月(1 科 1 種) 10 月(なし) 合計(1 科 1 種)				
ナメクジ科	ヤマナメクジ	○		

(付記)

ヤマナメクジ：軟体部背面の両側に黒褐色の帯が頭部から尾部まで走り、山間部に棲むことで、他のナメクジと区別することができる。



ヤマナメクジ

7 まとめ

今回の調査で、植物 105 科 369 種、ほ乳類 2 目 2 科 2 種、鳥類 4 目 9 科 10 種、爬虫類 1 目 2 科 2 種、両生類 1 目 1 科 2 種、昆虫類 10 目 51 科 114 種、クモ類 1 目 10 科 23 種、陸産貝類 2 目 2 科 2 種が確認された。

また、希少野生生物については、植物のハクチョウゲ【環境省絶滅危惧ⅠB類】、イヌカタヒバ【環境省絶滅危惧Ⅱ類】、両生類のニホンアカガエル【福岡県絶滅危惧Ⅱ類】、昆虫類のベニツチカメムシ【福岡県準絶滅危惧】が確認された。

今回の調査地域の大部分は、企業の所有地であるため、市民の自由な立ち入りは禁止されており、今回の 2 回の調査では確認されなかった希少野生生物が、まだ他にも生息している可能性が期待される。

8 謝辞

本調査の実施に当たりましては、三井化学(株)大牟田工場及び(株)九州ビルシステムに、敷地内での現地調査に快くご協力を賜りました。ここに深甚なる謝意を表します。

大牟田市自然環境調査研究会

大牟田市自然環境調査研究会

大牟田市における自然環境の調査、研究等を行い、専門的な見地から助言等を行う、市長の委嘱を受けた機関です。

発 行 日／平成22年3月

編集・発行／大牟田市環境部環境保全課

〒836-8666 大牟田市有明町2丁目3番地

TEL:0944(41)2721 FAX:0944(41)2722